

## 長期評価による地震発生確率値の更新について

### 公表の内容

地震調査委員会では、これまで将来の地震の発生可能性を評価する長期評価の中で、地震の発生確率値の算定に、想定された地震が発生しない限り、発生確率値が時間の経過とともに増加するモデル※を基本的に用いています。

このため、評価結果については、その値がいつの時点を基準として算定された発生確率であるか、が重要となります。

これまでは、令和 7 年(2025 年) 1 月 1 日を基準日として算定された地震の発生確率値を公表していました(令和 7 年 1 月 15 日公表)。

今回、これまでの算定基準日から 1 年が経過したことから、算定基準日を令和 8 年(2026 年) 1 月 1 日として再計算を行いましたので、長期評価による地震発生確率値を更新します。

### 発生確率値の計算結果について

今回の地震発生確率値の更新においては、時間の経過とともに確率値が増加するモデルを用いている全ての評価について、確率値の再計算を行っています。しかし、1 年という経過時間に対して、主要活断層の平均活動間隔は数千年程度と長いため、確率値の変化が小さく、計算結果の丸め(四捨五入)によって、これまでの表記と変わらない場合が多くなっています。

### ランク分けについて

地震発生確率が一般・自治体の方々には、分かりにくいこと、または、低く捉えられるおそれがあることから、活断層および海溝型地震の長期評価の広報資料に確率に基づくランク分けを導入しています。

※ 評価対象の地震の最新活動時期が不明な場合等は、時間の経過にかかわらず、発生確率値は一定となるモデル(ポアソン過程)を用いて発生確率値を算定しています。これらの地震については、今回の再計算の対象にはなっていません。

日本は世界的に見ると地震活動が活発で、どの場所においても、地震による強い揺れに見舞われるおそれがあります。

また、地震は、突然発生し甚大な被害を及ぼす可能性がありますので、日頃から耐震補強や家具の固定などの対策を講じておくことが重要です。

I．活断層で発生する地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 令和8年(2026年)1月1日)

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
六日町(北部/ケース2)	Zランク	Zランク
経過率	0.005-0.007もしくはそれ以上	0.006-0.007もしくはそれ以上
糸魚川-静岡構造線(北部)	S＊ランク(高い)	S＊ランク(高い)
30年	0.009-16%	0.01-16%
100年	0.05-40%	0.06-40%
高山・大原(国府)	S＊ランク(高い)	S＊ランク(高い)
経過率	0.07-1.3	0.08-1.3
有馬-高槻	Zランク	Zランク
100年	ほぼ0%-0.4%	ほぼ0%-0.5%

- ※活断層評価備考
- ここに掲載しているものは、再計算等の結果、発生確率値又は前回の地震発生からの経過率の表記に変更のあったものである。
  - 確率値は、有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。
  - 括弧「( )」の値は、参考値として確率の計算値を表したものである。この値は有効数字1桁(または2桁)で示す確率値より、下位の桁の値を含んでいる。

II．海溝型地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 令和8年(2026年)1月1日)

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
千島海溝		
超巨大地震(17世紀型) (M8.8程度以上)	Ⅲ＊ランク(高い)	Ⅲ＊ランク(高い)
10年	2%～10%	2%～10%
20年	4%～30%	4%～30%
30年	7%～40%	7%～40%
40年	9%～50%	9%～50%
50年	10%～60%	10%～60%
100年	20%～80%	20%～80%
300年	40%～90%程度以上	40%～90%程度以上
平均発生間隔	約340年-380年	約340年-380年
経過率	1.02-1.20	1.02-1.20
十勝沖 (M8.0～M8.6程度)	Ⅱランク(やや高い)	Ⅱランク(やや高い)
10年	0.7%	0.9%
20年	5%	6%
30年	20%程度	20%程度
40年	30%程度	30%程度
50年	40%程度	50%程度
	(44%)	(46%)
100年	90%程度	90%程度
300年	90%程度以上	90%程度以上
平均発生間隔	80.3年	80.3年
ばらつきα	0.38	0.38
経過率	0.26	0.28
根室沖 (M7.8～M8.5程度)	Ⅲ＊ランク(高い)	Ⅲ＊ランク(高い)
10年	30%程度	30%程度
20年	60%程度	70%程度
	(64%)	(66%)
30年	80%程度	90%程度
	(84%)	(85%)
40年	90%程度	90%程度以上
50年	90%程度以上	90%程度以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上
平均発生間隔	65.1年	65.1年
ばらつきα	0.22	0.22
経過率	0.79	0.81

- Ⅲランク(高い):30年以内の地震発生確率が26%以上
- Ⅱランク(やや高い):30年以内の地震発生確率が3～26%未満
- I ランク:30年以内の地震発生確率が3%未満
- Xランク:地震発生確率が不明(過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)
- 算定基準日における地震後経過率が0.7以上である海溝型地震については、ランクに「＊」を付記する。

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
生駒	Aランク(やや高い)	Aランク(やや高い)
100年	ほぼ0%-0.6%	ほぼ0%-0.7%

- Sランク(高い):30年以内の地震発生確率が3%以上
- Aランク(やや高い):30年以内の地震発生確率が0.1～3%未満
- Zランク:30年以内の地震発生確率が0.1%未満
- Xランク:地震発生確率が不明(過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)
- 算定基準日における地震後経過率が0.7以上である活断層については、ランクに「＊」を付記する。
- Zランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
日本海溝		
超巨大地震(M9.0程度)	I ランク	I ランク
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%～5%	ほぼ0%～5%
平均発生間隔	約550-600年	約550-600年
経過率	0.02-0.03	0.02-0.03
青森県東方沖及び 岩手県沖北部 (M7.9程度)	Ⅲランク(高い)	Ⅲランク(高い)
10年	0.04%～6%	0.06%～6%
20年	2%～20%	2%～20%
30年	20%～40%	20%～40%
40年	50%程度	50%程度
50年	70%～80%	70%～80%
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上
発生間隔	97.0年	97.0年
ばらつきα	0.11-0.24	0.11-0.24
経過率	0.58	0.59
宮城県沖の陸寄りの地震 (M7.4前後)	Ⅲランク(高い)	Ⅲランク(高い)
10年	ほぼ0%～3%	0.001%～5%
20年	10%～40%	20%～40%
	(13%～35%)	(20%～40%)
30年	80%～90%	80%～90%程度以上
	(76%～93%)	(79%～95%)
40年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度以上
50年	90%程度以上	90%程度以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上
発生間隔	38.0年	38.0年
ばらつきα	0.1-0.24	0.1-0.24
経過率	0.36	0.39

	2025年1月1日時点の評価	2026年1月1日時点の評価
相模トラフ		
M8クラス	Ⅱランク(やや高い)	Ⅱランク(やや高い)
10年	ほぼ0%～2%	ほぼ0%～2%
20年	ほぼ0%～4%	ほぼ0%～4%
30年	ほぼ0%～6%	ほぼ0%～6%
40年	ほぼ0%～9%	ほぼ0%～9%
50年	ほぼ0%～10%	ほぼ0%～10%
100年	ほぼ0%～30%	ほぼ0%～30%
300年	ほぼ0%～80%	ほぼ0%～80%
平均発生間隔	180-590年	180-590年
経過率	0.17-0.56	0.17-0.57

日本海東縁部	2025年1月1日時点の評価		2026年1月1日時点の評価
北海道北西沖 (M7.8程度)	Ⅰ ランク		Ⅰ ランク
	10年	0.002%～0.04%	0.002%～0.04%
	20年	0.004%～0.07%	0.004%～0.07%
	30年	0.006%～0.1%	0.006%～0.1%
	40年	0.008%～0.2%	0.008%～0.2%
	50年	0.01%～0.2%	0.01%～0.2%
	100年	0.03%～0.4%	0.03%～0.4%
	300年	0.2%～2%	0.2%～2%
平均発生間隔	3900年程度		3900年程度
ばらつき $\alpha$	0.17-0.24		0.17-0.24
経過率	0.54		0.54
北海道西方沖 (M7.5前後)	Ⅰ ランク		Ⅰ ランク
	10年	ほぼ0%	ほぼ0%
	20年	ほぼ0%	ほぼ0%
	30年	ほぼ0%	ほぼ0%
	40年	ほぼ0%	ほぼ0%
	50年	ほぼ0%	ほぼ0%
	100年	ほぼ0%	ほぼ0%
	300年	ほぼ0%	ほぼ0%
平均発生間隔	1400-3900年程度		1400-3900年程度
ばらつき $\alpha$	0.17-0.24		0.17-0.24
経過率	0.02-0.06		0.02-0.06
北海道南西沖 (M7.8前後)	Ⅰ ランク		Ⅰ ランク
	10年	ほぼ0%	ほぼ0%
	20年	ほぼ0%	ほぼ0%
	30年	ほぼ0%	ほぼ0%
	40年	ほぼ0%	ほぼ0%
	50年	ほぼ0%	ほぼ0%
	100年	ほぼ0%	ほぼ0%
	300年	ほぼ0%～5%	ほぼ0%～5%
平均発生間隔	500-1400年程度		500-1400年程度
ばらつき $\alpha$	0.17-0.24		0.17-0.24
経過率	0.02-0.06		0.02-0.06
青森県西方沖 (M7.7前後)	Ⅰ ランク		Ⅰ ランク
	10年	ほぼ0%	ほぼ0%
	20年	ほぼ0%	ほぼ0%
	30年	ほぼ0%	ほぼ0%
	40年	ほぼ0%	ほぼ0%
	50年	ほぼ0%	ほぼ0%
	100年	ほぼ0%	ほぼ0%
	300年	ほぼ0%～7%	ほぼ0%～7%
平均発生間隔	500-1400年程度		500-1400年程度
ばらつき $\alpha$	0.17-0.24		0.17-0.24
経過率	0.03-0.08		0.03-0.09

※海溝型地震備考

- ここに掲載しているものは、再計算を行ったもの全てである。
- 水色で示した箇所が、再計算の結果、表記に変更のあったものである。
- 確率値は、有効数字1桁で記述している。
- 括弧「( )」の値は、参考値として確率の計算値を表したものである。この値は有効数字1桁で示す確率値より、下位の桁の値を含んでいる。

(注) 南海トラフの地震の場合、「平均発生間隔」及び「ばらつき $\alpha$ 」は評価時点におけるベイズ推定による事後分布の期待値である。

南海トラフ	2025年1月1日時点の評価		2026年1月1日時点の評価
M8～M9クラス (すべり量依存BPTモデル)	Ⅲ*ランク(高い)		Ⅲ*ランク(高い)
	10年	ほぼ0%～40%	ほぼ0%～40%
	20年	20%～80%	20%～80%
	30年	60%～90%程度以上	60%～90%程度以上
	40年	80%～90%程度以上	80%～90%程度以上
	50年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度もしくはそれ以上
	100年	90%程度以上	90%程度以上
	300年	90%程度以上	90%程度以上
平均発生間隔 <sup>(注)</sup>	95.9年		96.5年
ばらつき $\alpha$ <sup>(注)</sup>	0.17		0.17
経過率	0.82		0.83
M8～M9クラス (BPTモデル(ケースⅢ))	Ⅲランク(高い)		Ⅲランク(高い)
	10年	0.07%～9%	0.2%～10%
	20年	6%～30%	7%～30%
	30年	20%～50%	20%～50%
	40年	40%～70%	40%～70%
	50年	60%～90%	60%～90%
	100年	90%程度以上	90%程度以上
	300年	90%程度以上	90%程度以上
平均発生間隔 <sup>(注)</sup>	117.4年		117.4年
ばらつき $\alpha$ <sup>(注)</sup>	0.2		0.2
経過率	0.67		0.68

日本海東縁部	2025年1月1日時点の評価		2026年1月1日時点の評価
山形県沖(M7.7前後)	Ⅰ ランク		Ⅰ ランク
	10年	ほぼ0%	ほぼ0%
	20年	ほぼ0%	ほぼ0%
	30年	ほぼ0%	ほぼ0%
	40年	ほぼ0%	ほぼ0%
	50年	ほぼ0%	ほぼ0%
	100年	ほぼ0%	ほぼ0%
	300年	0.001%～0.2%	0.001%～0.2%
平均発生間隔	1000年程度以上		1000年程度以上
ばらつき $\alpha$	0.17-0.24		0.17-0.24
経過率	0.19以下		0.19以下
新潟県北部沖 (M7.5前後)	Ⅰ ランク		Ⅰ ランク
	10年	ほぼ0%	ほぼ0%
	20年	ほぼ0%	ほぼ0%
	30年	ほぼ0%	ほぼ0%
	40年	ほぼ0%	ほぼ0%
	50年	ほぼ0%	ほぼ0%
	100年	ほぼ0%	ほぼ0%
	300年	ほぼ0%	ほぼ0%
平均発生間隔	1000年程度以上		1000年程度以上
ばらつき $\alpha$	0.17-0.24		0.17-0.24
経過率	0.06以下		0.06以下